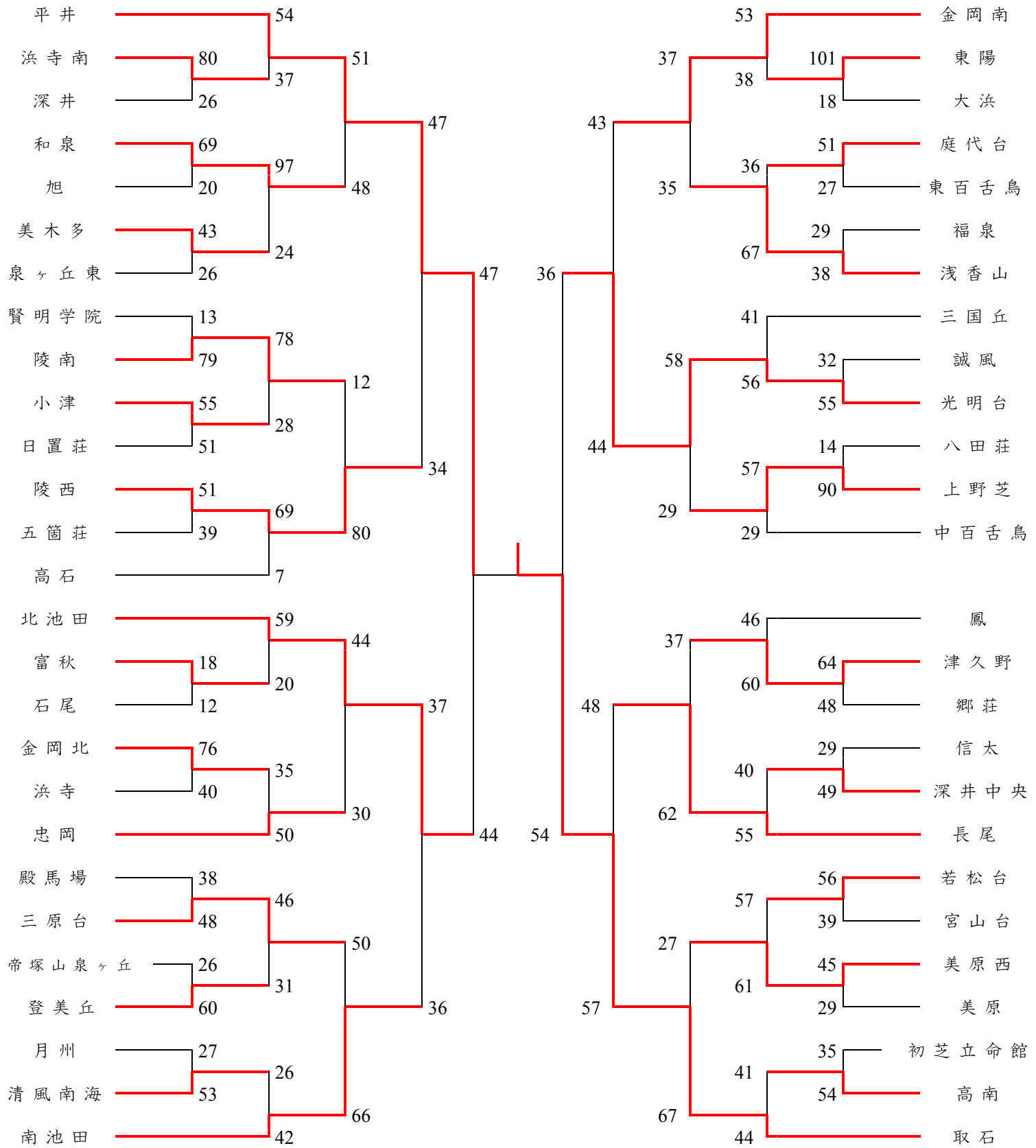


2017年度 泉北地区新人大会

男子の部



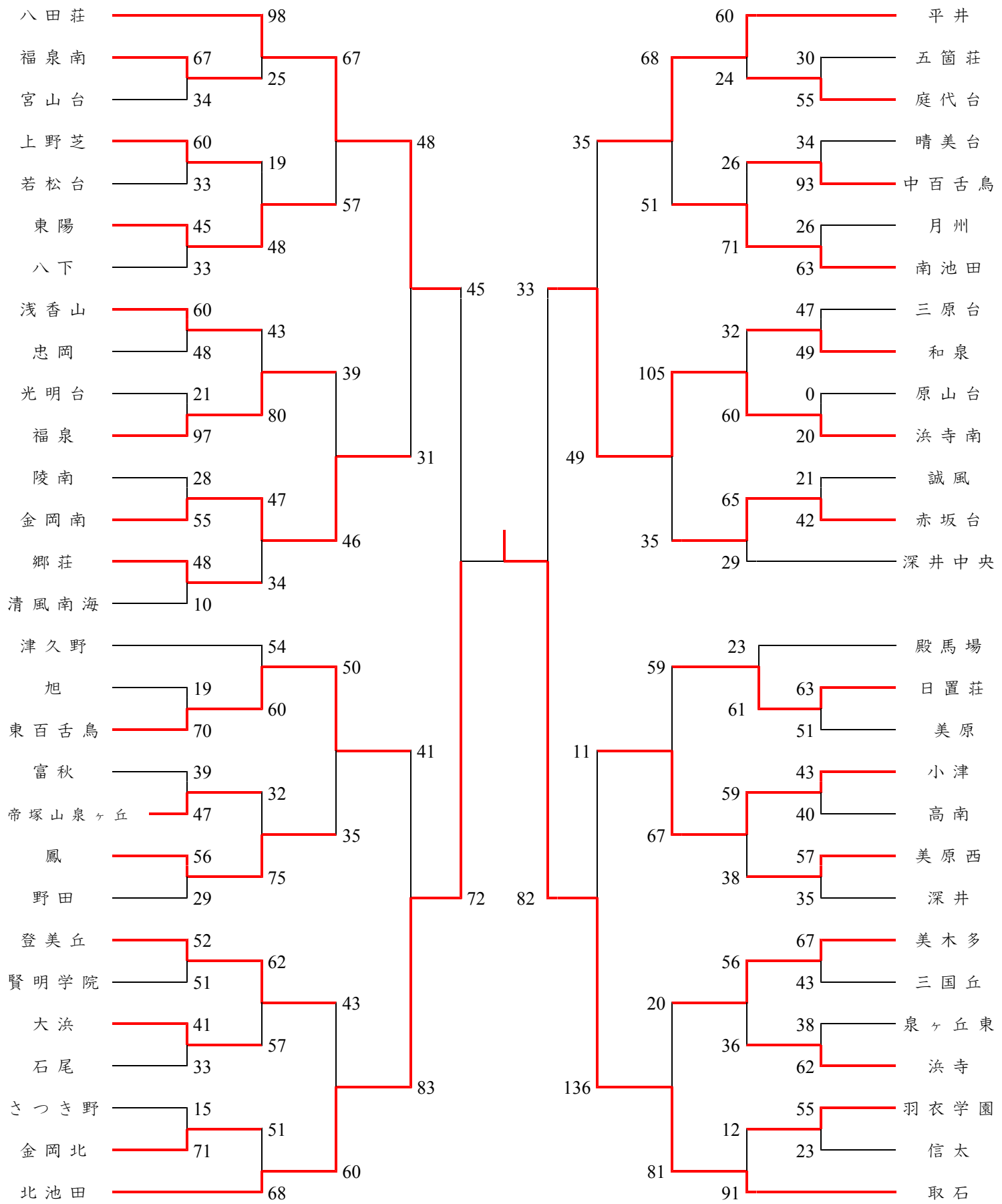
決勝

| | | | | | | |
|----|---|----|----|---|---|----|
| 平井 | 4 | 2 | - | 4 | 3 | 取石 |
| | 7 | 1Q | | 1 | 6 | |
| | 8 | 2Q | | 1 | 2 | |
| | 1 | 3 | 3Q | | 8 | |
| | 1 | 4 | 4Q | | 7 | |

3位決定戦

| | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|-----|
| 北池田 | 6 | 4 | - | 5 | 4 | 光明台 |
|-----|---|---|---|---|---|-----|

女子の部



決勝

| | | | | | | | |
|-----|---|----|----|---|---|---|----|
| 北池田 | 3 | 0 | - | 1 | 0 | 1 | 取石 |
| | 5 | 1Q | 2 | 2 | | | |
| | 4 | 2Q | 2 | 8 | | | |
| | 8 | 3Q | 2 | 3 | | | |
| | 1 | 3 | 4Q | 2 | 8 | | |

3位決定戦

| | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|-----|
| 八田荘 | 3 | 2 | - | 7 | 8 | 洪寺南 |
|-----|---|---|---|---|---|-----|

男子決勝戦評

両者ともオフェンスに定評にあるチーム同士の戦いとなった決勝の第1ピリオドは平井④⑤⑥⑦⑩、取石④⑤⑥⑧⑨のスターティングメンバーで臨んだ。最初の2分間は共に速攻を展開しようと試みるが、なかなか互いに得点を奪うことができない時間であったが、取石⑥のドライブから互いの持ち味が出てき始めた。平井は⑤の1vs1を起点にパスを展開し、④のジャンプシュートや⑥の3ポイントで得点を重ねる。取石は⑥のドライブ、⑤の1vs1から思い切りのいいシュートが決まり、取石がリードする展開になった。残り2分40秒で平井が同点に追いついたが、残り1分30秒より取石の⑤の3ポイントをきっかけに、取石が連続で得点を重ね、7-15と取石リードで第1ピリオドを終える。

第2ピリオドは、リードされた平井が⑤、⑥が1vs1から得点を狙いに行くが、思うように得点を決められずに時間が経過する。取石は⑤が第1ピリオドの勢いそのまま積極的に1vs1を仕掛け、ジャンプシュートや3ポイントシュートを決めていく。残り5分5秒で9-25と取石のリードが広がったところで平井がタイムアウトを請求した。タイムアウト明け直後に平井のスクリーンプレーから得点が生まれ、取石に傾いた流れを徐々に引き戻していく。また、ディフェンスでも取石の⑤への1線・2線でのプレッシャーが激しくなり、得点が止まってしまう。ターンオーバーから速攻を繰り出した平井がリードを縮めて後半戦へと繋ぐ。第2ピリオドを終えて15-28で取石がリード。

第3ピリオドは平井が攻勢に出る。平井の⑤が1vs1から積極的にドライブを仕掛け、得点につなげる。また⑤の3ポイントシュートも決まり、⑥のドライブからバスケットカウントにつながるプレーが連続で飛び出し、平井の攻めに勢いが出始めた。逆に取石は後半に得点が思うように決まらなくなる。残り3分41秒で23-30とリードを縮められたところでタイムアウトを請求した。その後、⑤がハイポストから1vs1を仕掛け、得点につなげ、最後は⑥のブザービーターでこのピリオドを終える。28-36で取石がリード。

第4ピリオドは、さらに平井の勢いが増す展開になる。取石はハーフコートでのプレッシャーが強くなった平井のディフェンスに苦しみ、得点が思うように伸びない。平井は④、⑤、⑥の1vs1を起点にオフェンスが繰り出し、一時は16点差あったリードを5分26秒とで1点差まで追い上げる。37-38と追い上げられた取石はタイムアウトを請求し、流れを切りに行く。平井は残り4分20秒で一時は逆転するが、また取石にリードされる一進一退の攻防が行われる。43-42取石の1点リードで迎えた残り15.6秒。ボールは最後のオフェンスにかける平井。スペースを探しながらパスを展開するが、取石にパスカットされ、試合終了。43-42で取石が泉北新人大会を制した。 (和泉 川合)

女子決勝戦評

取石ボールでゲームがスタート。1Q、取石5番がOF、リバウンド共に活躍し、序盤から得点を重ねる。パスカットなどによるターンオーバーも増え、点差が広がっていく。北池田も、外のシュートとドライブを用い、積極的にOFを行うが、フリースローもなかなか決まらず、北池田5-取石22で1Qを終える。

2Q、取石の厳しいDFが続き、ターンオーバーからの速攻で得点を重ねる。北池田はいつも通りのOFのリズムが作れず、得点が止まり、北池田9-取石50で前半が終わる。

後半、開始直後に北池田5番がシュートを決める。その後も5番8番を中心に、ドライブからのシュートや合わせを使い、積極的にOFを行うが、取石のドライブを止めることが出来ず、北池田17-取石73まで点差が広がる。

4Q、北池田10番のスリーポイントや、5番のドライブからのバスケットカウントなど、前半から引き続きOFの粘りを続けるが、取石の厳しいDF、鋭いドライブからの得点が止まらず、得点差を縮めることが出来ない。最終的に、北池田30-取石101で試合を終え、取石中学校が優勝した。 (深井中央 根田)